

## 国立駅開業 100 周年を迎える旧国立駅舎で開催 東京大空襲(1945年3月10日)をつたえる 絵本「またあしたあそぼうね」パネル展

市は、東京大空襲等の惨禍や実相の継承、市民の平和意識の醸成を目的として、東京大空襲体験者・二瓶治代氏の体験をもとに描かれた絵本「またあしたあそぼうね」(文・山下ますみ/絵・ささきみお)のパネル展を開催します。

戦争中ながらもあった温かな日々、たくさんの命を失った 1945 年 3 月 10 日の深夜の空襲『東京大空襲』。絵と文字、そして作者の山下ますみ氏の朗読音声を通じて、当時の様子を伝えます。

絵本のパネル以外に、体験者、作者からのメッセージや紹介パネル等の展示もあります。

このことを広く周知したく、ぜひ、貴媒体での告知および取材・掲載方、お願いいたします。

### 概要

■日時 3月5日(木)正午～11日(水)午後3時

■場所 旧国立駅舎 広間 (国立市北1-14-1)

■備考 旧国立駅舎の開館時間は、平日午前7時～午後10時(土・日曜・祝日は午前9時から)です。その他の詳細は、補足資料および添付のちらしをご覧ください。



©Masumi Yamashita, ©Mio Sasaki

「またあしたあそぼうね」文・山下ますみ/絵・ささき みお  
【第 51 回 長崎県読書感想文コンクール 3、4 年生課題図書選定作品、出版:新日本出版社】

### あらすじ

いつものように友達と遊んで「また、あしたあそぼうね」と別れた後、東京の下町に大規模な空襲がありました。1945年3月10日未明のことです。8歳のはるよちゃんが空襲のなかで見た痛ましい光景とは？

パネル展の詳細 (市ホームページ)

<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept01/Div01/Sec03/gyomu/0373/0384/tokyodaikushu/13667.html>



問い合わせ

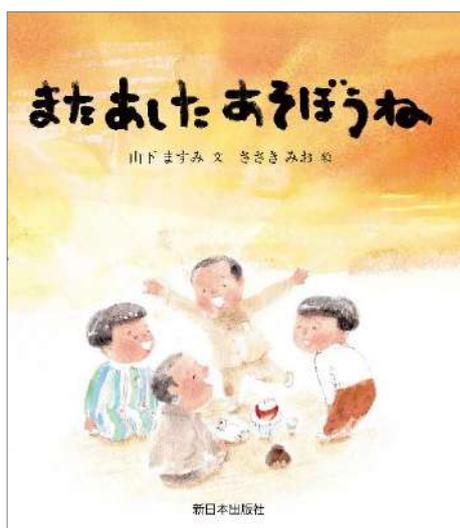
国立市 政策経営部 市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係  
TEL:042-576-2111(内線 229)

## 【補足資料】

東京大空襲体験者・二瓶治代さん（被災時、亀戸在住／現在、国立市在住）の体験をもとに描かれた絵本「またあしたあそぼうね」。本作を、体験者・二瓶治代さん、絵本を手掛けた山下ますみさん（文）、ささき みお さん（絵）の協力のもと、2025年、国立市がパネル化。また、音声再生機器『音筆（おんぴつ）』により、作者・山下ますみさんによる同作の朗読音声の再生が可能。2025年3月に市内の2施設にて初の展示を実施後、今回は二度目の展示となる。

なお、絵本のパネル以外に、体験者や作者の紹介やメッセージなどのパネルも展示予定。

## 絵本「またあしたあそぼうね」



あらすじ

いつものように友達と遊んで「また、あしたあそぼうね」と別れた後、東京の下町に大規模な空襲がありました。1945年3月10日未明のことです。8歳のはるよちゃんが空襲の中で見た痛ましい光景とは？

【第51回 長崎県読書感想文コンクール 3、4年生 課題図書 選定作品】

出版：新日本出版社

文：山下ますみ、絵：ささき みお

初版：2019年2月15日

## 東京大空襲

1941年に始まった太平洋戦争。東京は、1942年4月から1945年8月までに100回を超える空襲を受けました。中でも1945年3月10日未明には、現在の墨田区・江東区・台東区を中心とする下町地区に、米軍のB29爆撃機約300機による大規模な空襲“東京大空襲”が行われ、約2時間半に渡る焼夷弾の投下により、一晩で10万人ともいわれる尊い命が失われました。

## 主人公、作者紹介



主人公・はるよちゃん

東京大空襲体験者・二瓶治代さん

東京都国立市在住。8歳のときに亀戸（東京都江東区）で東京大空襲に遭い被災。家族とはぐれて炎の中を逃げまどい、折り重なる死体の下で一命を取り留める。奇跡的に家族と再会するも、前日まで遊んでいた多くの友人が犠牲に。

当時の体験を、東京大空襲・戦災資料センター（東京都江東区）で多くの方に語るとともに、国立市が実施する『くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者（※P3参照）育成プロジェクト』に第2期（2017年）から参加。二瓶さんの体験を語り継ぐ伝承者の育成を行っている。



**絵本「またあしたあそぼうね」文・山下ますみさん**

福岡県北九州市生まれ。東京都国分寺市在住。公立小学校で学校司書として勤務のかたわら、国立市の伝承者育成プロジェクトに参加。同市から委嘱を受け 2018 年より『くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者』(※P3 参照) として二瓶治代さんの戦争体験と平和への思いを語り継いでいる。



**絵本「またあしたあそぼうね」絵・ささき みおさん**

国分寺市在住。イラストレーター。保育図書・絵本・児童書の作画など行う。作品に『いーれーて!』(ひさかたチャイルド)、『ごめんねでてこい』第 70 回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(文研出版)、『みてみておぼけ』(国土社)、『おかあさん、おみやげ』(フレーベル館)。挿絵に『とうだいの光』(作・山下ますみ/新日本出版社)。

**【関連イベント】**

**くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者講話**

絵本「またあしたあそぼうね」の主人公で東京大空襲の体験者・二瓶治代さんや、長崎の原爆体験者・桂茂之さんから受け継いだ体験と平和への思いを、国立市が育成・認定した「伝承者」が、空襲や原爆の実相を交えながら語ります。

日時：令和 8 年 3 月 7 日(土) 14 時～16 時

東京大空襲のお話：14 時～14 時 45 分

長崎原爆のお話：15 時～15 時 45 分

会場：国立市公民館 ロビー

参加：無料／申込優先(電話、メール、WEB フォーム)

※当日、お席に余裕のある場合は、お申込みなしでも参加可。



市内市立小中学校でも伝えているこの講話は、  
小学校中学年から大人まで幅広い世代の方に聴講いただいています。



申込フォーム

## くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者

### 戦争体験者の高齢化―語る限界とつなぐ挑戦

2015年、当市は、長崎で被爆した桂 茂之さん（当時くにたち桜会・会長）と広島で被爆した平田忠道さん（当時同会・副会長）とともに、両氏の原爆の体験と平和への思いを次世代に継承する伝承者（後継者）の育成を開始しました。2017年からは、東京大空襲の体験者・二瓶治代さんも加わり、二瓶さんの体験を語る伝承者を育成。プロジェクト開始から10年を超えた今日まで広島原爆、長崎原爆、東京大空襲の3つの戦争体験を、定期講話、学校講話、派遣講話を通じて語り継いでいます。

開始時期	2015年1月～ 第1期伝承者育成プロジェクト 第2期：2017年1月～／第3期：2022年4月～
2025年度活動者数	21名※（広島原爆：12名／長崎原爆：6名／東京大空襲：10名） ※2つの講話を話すことができる伝承者がいるため、内訳の人数とずれがあります。
委嘱者	東京都国立市
ホームページ	▶「くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者」の定期講話 <a href="https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7726.html">https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7726.html</a> ▶くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者講話 <a href="https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7725.html">https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7725.html</a>

### 体験者の体験と思いそのままに、伝承者の数だけ「語り」がある

当市の伝承者は、1年以上かけて体験者から聞き取った体験や平和への思いを「事実を曲げない」「捏造しない」ことを原則として、伝承者自身の感性と生の言葉でストーリーを組み立てて講話を行っています。体験者のコピーではない語りこそが、本伝承者講話の真髄といえます。

### 受け継ぐ戦争体験



平田 忠道さん

1930年（昭和5年）生／2019年逝去  
1945年4月、東京都麻布から父親が転勤していた広島へ、母親と妹、2人の弟とともに転居。そのわずか4か月後、中学3年生だった平田さんは、広島市北部にある可部町での勤労働員の作業中に被爆。



桂 茂之さん

1930年（昭和5年）生／2017年逝去  
当時、長崎中学校3年生だった桂さんは、学校で製造した部品を大八車に乗せて、同級生4人1組で三菱造船所に運ぶ途中、長崎駅付近で被爆。



二瓶治代さん

1936年（昭和11年）生  
8歳のときに東京大空襲に遭い、亀戸で被災。家族とはぐれて炎の中を逃げまどい、折り重なる死体の下で一命を取り留める。奇跡的に家族と再会するも、前日まで遊んでいた多くの友人が犠牲に。

以上

主催：国立市

みんなもえてしまう



東京大空襲(1945年3月11日) 関連パネル展

# 絵本 **またあしたあそぼうね** 展

入場  
無料

市WEBサイト



2026年3月5日(水)正午～3月11日(火)15時 **旧国立駅舎 広間**

国立市 政策経営部 市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係 電話：042-576-2111(代)

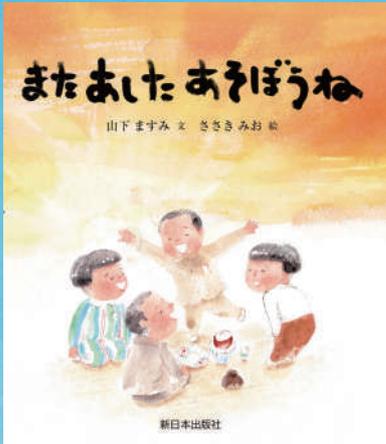


# 東京大空襲(1945年3月10日)をつたえる絵本のパネル展を国立駅開業100周年(1926年4月1日)を迎える旧国立駅舎で開催!

東京大空襲体験者・二瓶治代さん(被災時、亀戸/現在、国立市在住)の体験をもとに描かれた絵本『またあしたあそぼうね』(文・山下ますみ/絵・ささきみお)のパネル展を開催します。

戦争中ながらもあった温かな日々、そしてたくさんの命を失った深夜の空襲。絵と文字、そして作者の山下ますみさんの朗読音声を通じて、1945年3月を感じてみませんか。

絵本 **またあしたあそぼうね** 展 —東京大空襲 関連パネル展示— **入場無料**  
2026年3月5日(木) 正午~3月11日(水) 15時 旧国立駅舎 広間  
広間 開館時間: 平日: 7時~22時/土日・祝日: 9時~22時



## あらすじ

いつものように友達と遊んで「また、あしたあそぼうね」と別れた後、東京の下町に大規模な空襲がありました。1945年3月10日未明のことです。8歳のはるよちゃんが空襲の中で見た痛ましい光景とは?

▼市WEBサイト



文: 山下ますみ/絵: ささきみお 出版: 新日本出版社  
\* 第51回 長崎県読書感想文コンクール 3、4年生 課題図書 選定作品

## 東京大空襲

1941年に始まった太平洋戦争。東京は、1942年4月から1945年8月までに100回を超える空襲を受けました。中でも1945年3月10日未明には、現在の墨田区・江東区・台東区を中心とする下町地区に、米軍のB29爆撃機約300機による大規模な空襲『東京大空襲』が行われ、約2時間半に渡る焼夷弾の投下により、一晩で10万人ともいわれる尊い命が失われました。



主催: 国立市  
©Masumi Yamashita, Mio Sasaki

二瓶治代さんから受け継いだ東京大空襲の体験と平和への思いも聞ける

## くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者講話

市内在住の東京大空襲の体験者・二瓶治代さんや長崎の原爆体験者・桂茂之さんから受け継いだ体験と平和への思いを国立市が育成・認定した「伝承者」が、空襲や原爆の実相を交えながら語ります。

3月7日  
(土)

日時: 2026年3月7日(土) 14時~16時

東京大空襲のお話: 14時~14時45分

長崎原爆のお話: 15時~15時45分

▼WEBフォーム



会場: 国立市公民館 ロビー

参加: 無料/申込優先(電話、メール、WEBフォーム)

※当日、お席に余裕がある場合はお申込みなしでも参加可。



国立市 政策経営部 市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係  
電話: 042-576-2111 (代) / メール: sec\_diversity@city.kunitachi.lg.jp